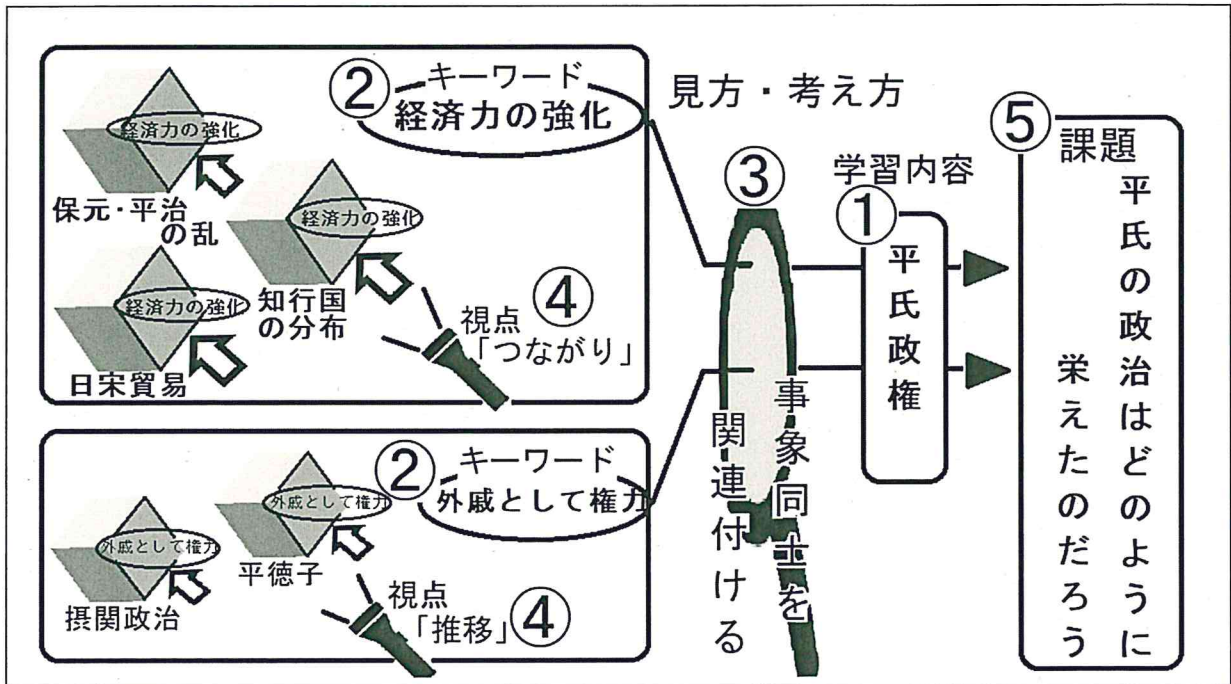


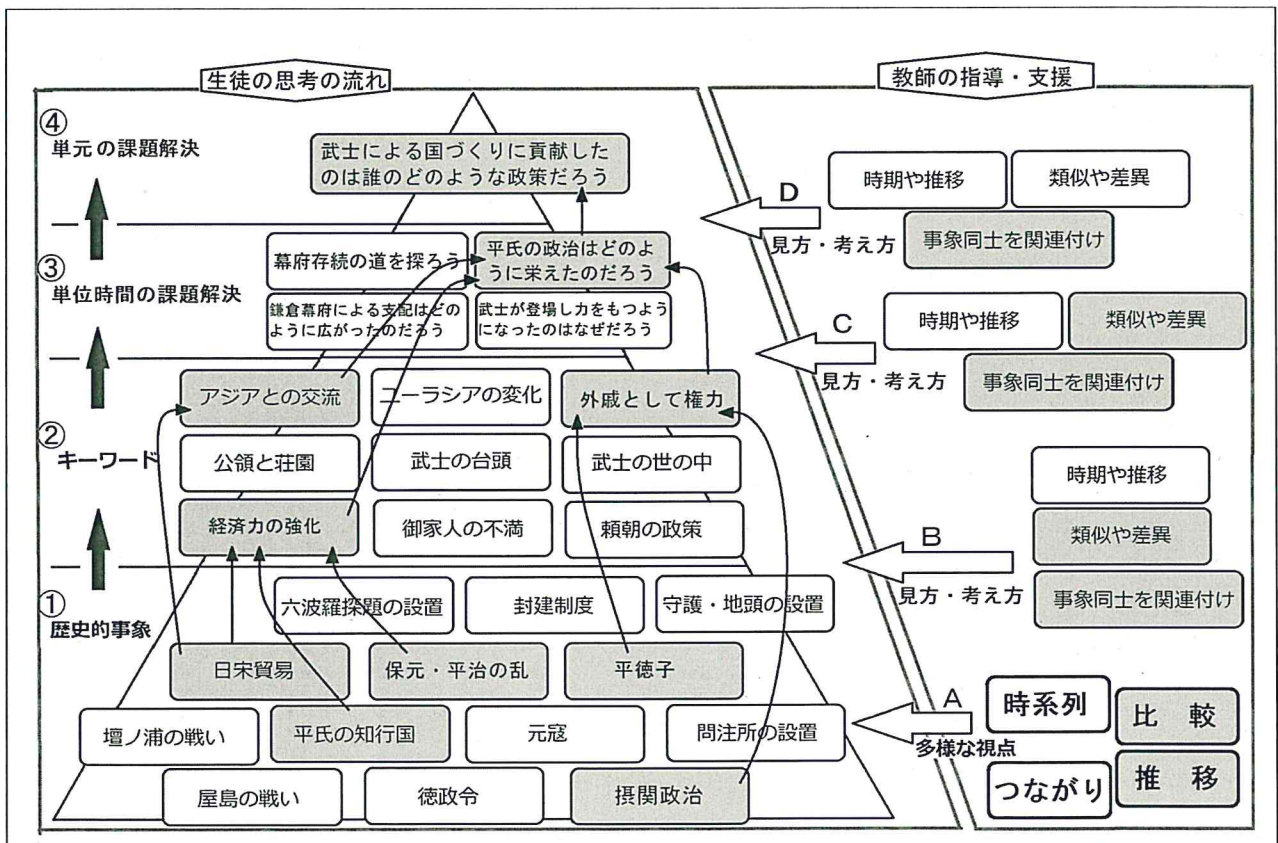
資料 1

教師の「単位時間の課題」設定の手順（「武家政治の成立とユーラシアの交流」第3時の例）



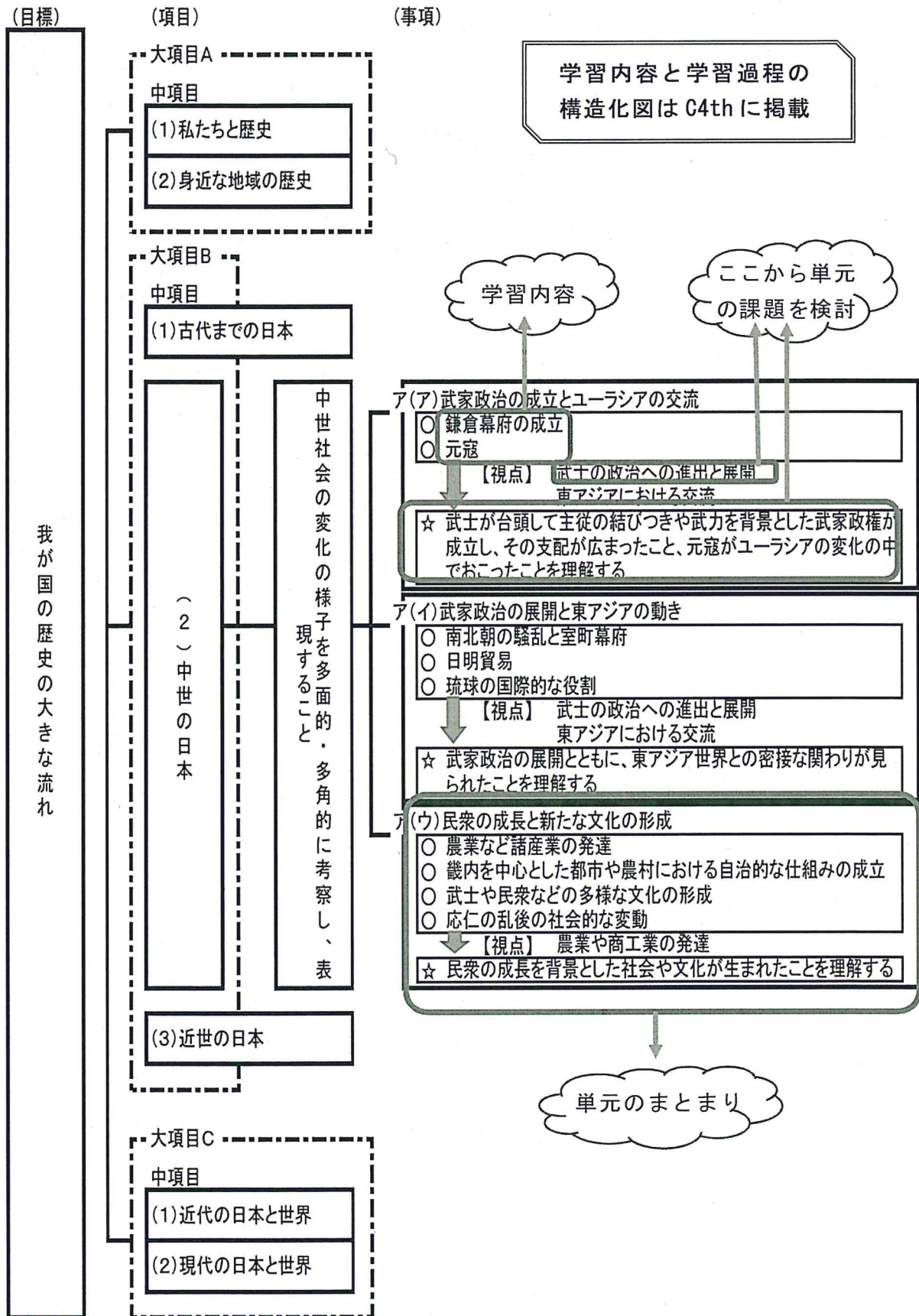
資料 2

「単元の課題」解決に向かう生徒の思考の流れ（↑）と教師の指導・支援のタイミング（←）



資料 3

学習内容と学習過程の構造化図 (次期指導要領を参考に本単元に合わせて作成)



資料 4

歴史的な見方・考え方を働かせる場面を意図的に位置付けた単元計画

イ 中世の日本

(ア) 第1節 武家政治の成立とユーラシアの交流《6時間》

(◎視点に関わる留意点 ○留意点 ●支援等)

【視点】→キーワード 《歴史的な見方・考え方》

学習過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点(◎○)および支援等(●)	評価項目
単元を貫く課題 「武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう」				
つかむ	1	1.鎌倉時代の既習事項を振り返り、課題を設定する。	○鎌倉時代に関わる歴史上の人物と功績を、既習事項を基に挙げられるよう、提示する資料を用意する。 ●既習事項が出てこない生徒のために、小学校の教科書に掲載されている人物の資料を提示する。 ◎平安時代と鎌倉時代の違いについて、既習事項を基に挙げられるように、視点について確認する場面を設ける。 【比較】→時代による違い ◎平安時代末期から鎌倉時代の中心となった人々が目指した国づくりを追究するような課題になるように助言する。 ●導入で確認した「天皇中心の政治」や「貴族中心の政治」を参考に考えるよう声がけを行う。 ○各班の発表を生かして、単元を貫く課題づくりを行う。 ○学習前の予想をワークシートに記入し、単元終了時に記入するものと比較すること学びを振り返られるようにする。 《類似や差異》	中世に登場する人物の政治の中、武士の力が移ったこと、心をつかみ、課題を設定している。(関心・意欲・態度)ワークシート
追究する	1	2.武士の成長(教科書 P.66~67) 武士が登場した理由について、朝廷との関係を探る。 「武士が登場し力をもつようになったのはなぜだろう」	◎律令制の崩壊から土地の私有が始まり、武士の権利を守るために武士が登場したことに関心するよう資料を用意する。 ○粉河寺縁起絵巻から武士が登場する様子を考察できるようにする。 ●税が人ではなく土地にかけられるようになり、土地をめぐる争いが起こったことをおさえる。 ◎古代の土地制度の変遷を振り返り、武士、武士団が誕生する社会の変化について土地との関係で考察できるようにする。 【推移】→土地は財産 ●奈良時代の公地公民から荘園の増加にかけて、土地制度の変遷の全体像を掴むことができるよう、時系列で確認すること。 ◎貴族と、地方の反乱を武士の力により鎮圧したことと、地方の反乱を武士の力により鎮圧したこととを関連させ、武士が重用されるようになっていく様子を探ることができるようになる。 【つながり】→武士の台頭 ○石山寺縁起絵巻や法然上人絵伝から武士が地位を高めていく様子に着目できるようにする。 《時期や推移、事象同士を関連付ける》	武士が起こった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について、朝廷との関係を探る。(思考・判断・表現)ワークシート、観察
	1	3.武士の政権の成立(教科書 P.68~69) 平氏の盛衰を朝廷や武士団	○保元の乱・平治の乱を経て平氏が力をもったことを確認する。 ◎平氏が支配した国を示した地図を基に、平氏が強い経済力で繁栄したことを考察できるようにする。 ●平氏が支配した国については資料集68ページを参照するよう声がけを行う。	平氏が力を持った理由が長続きしなかった理由を、朝廷や武士団との関係

	との関係から考察する。 「平氏の政治はどのようだったの？」	<p>【つながり】→経済力が強化 ○平氏の経済力の基盤の一つである日宋貿易についてもふれる。 ◎平氏政権と摂関政治を比較し、平氏が力を持った理由を考察できるようにする。 ●天皇家と平氏の家系図から考察するように働きかける。</p> <p>【比較】→外戚として権力 《類似や差異、事象同士を関連付ける》</p>	から考察している。 (思考・判断・表現) 〔ワークシート、観察〕	
1	4. 鎌倉幕府の成立と執権政治 (教科書 P.70~71) 鎌倉幕府の支配をこの武づての考察を通して、国づくりに理解する。 「鎌倉幕府にどのよう広がったのだろうか？」	<p>○源平の争乱について簡単にまとめる。その際、個別の戦いについて取り上げるのではなく、大きな流れとして源氏が平氏を倒したことを捉えられるようにする。 ●資料集 70 ページの地図を参照して確認するよう働きかける。 ◎幕府のしくみの整備、守護・地頭の設置などを時系列で確認し、幕府の成立について理解できるようにする。 ○問注所の役割から関連させて、初めての武家法である御成敗式目にもふれる。 ●資料集 72 ページを参照するよう働きかける。</p> <p>【時系列】→統治のしくみが成立 ○幕府による統治の基礎が、将軍と御家人の主従関係にあり武士の暮らしと関わっていることを理解できるようにする。 ○承久の乱のきっかけと結果について理解できるようにする。 ◎承久の乱の結果、幕府の支配が東国から西国にまで拡大したことを掴むことができるようにする。</p> <p>【つながり】→幕府支配の拡大 ○幕府成立の年については、教科書の記述に合わせて守護・地頭の設置をもって成立したとして指導するが、未だ定説がなく 1185 年から 1192 年にかけて段階を経て成立したことにふれる。 《時期や推移、事象同士を関連付ける》</p>	鎌倉幕府成立の経緯、守護・地頭の権限、封建制度について理解している。 (知識・理解) 〔ワークシート〕	
1	5. モンゴルの襲来と日本 (教科書 P.76~77) モンゴルによる日本への影響を、幕府の対モンゴル政策を考察し、その方法を考える。 「幕府存続の道を探ろう」	<p>○ユーラシアの地図からモンゴルがアジアからヨーロッパにまたがる大帝国を築き、それによってアジアとヨーロッパの交流が広がったことに気付くことができるようにする。 ◎教科書の蒙古襲来絵詞から元寇の様子に触れ、御家人の負担と恩賞について理解させ、御家人が抱く不満について考察できるようにする。</p> <p>【つながり】→御家人の窮乏 ◎御家人の窮乏から、モンゴルの襲来が幕府滅亡の原因となったことに気付くことができるようにする。 ○御家人救済のための徳政令についてもふれる。 ◎鎌倉後期の守護の配置から、北条氏の権力の独占の様子に気付かせ、御家人の不満の高まりについて考察できるようにする。</p> <p>【つながり】→北条氏への不満 ◎後醍醐天皇による倒幕の動きや、それに協力する御家人、悪党の様子から、皇族、武士の政治の実権をめぐる思いについて考察できるようにする。</p> <p>【つながり】→政治の実権 ○悪党の誕生などから、鎌倉時代の主従関係の崩壊について理解できるようにする。 《事象同士を関連付ける》</p>	モンゴルの襲来による幕府への影響を考察している。 (思考・判断・表現) 〔ワークシート〕 御家人の窮乏を解消する方法を考へていくことができる。 (関心・態度) 〔観察〕	
ま	1	6. 武士による国	○ワークシートに記入しながら、ここまで	武士による

第3時 武士の政権の成立

社会科学ワークシート 「武士の政権の成立」
教科書 P.68~69 1年_組_番 氏名 _____

単元の課題 武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう

本時の課題 **第一段階 (課題の把握)**

【つながり】 【比較】

第二段階 (キーワードの発見)

自分の考え **第三段階 (個人の考察)**

友達の見えから 他の方の見えから

第四段階 (意見交流)

各組の発表を聞いての自分の考え **第五段階 (考察の深化)**

第4時 鎌倉幕府の成立と執権政治

社会科学ワークシート 「鎌倉幕府の成立と執権政治」
教科書 P.70~71 1年_組_番 氏名 _____

単元の課題 武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう

本時の課題 **第一段階 (課題の把握)**

【時系列】 【つながり】

第二段階 (キーワードの発見)

自分の考え **第三段階 (個人の考察)**

友達の見えから 他の方の見えから

第四段階 (意見交流)

各組の発表を聞いての自分の考え **第五段階 (考察の深化)**

第5時 モンゴルの襲来と日本

社会科学ワークシート 「モンゴルの襲来と日本」
教科書 P.76~77 1年_組_番 氏名 _____

単元の課題 武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう

本時の課題 **第一段階 (課題の把握)**

【つながり】

第二段階 (キーワードの発見)

自分の考え **第三段階 (個人の考察)**

友達の見えから 他の方の見えから

第四段階 (意見交流)

各組の発表を聞いての自分の考え **第五段階 (考察の深化)**

第6時 武士による国づくりを振り返る

社会科学ワークシート 「武士による国づくりを振り返る」
1年_組_番 氏名 _____

本時の課題 (単元の課題) 武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう

人物と政策

1.平氏・源氏	武士が力をもつ	平家頼朝	承久の乱の言葉
2.平清盛	太政大臣	源頼朝	御成敗式目の制定
3.平清盛	外祖父として権力	足利三代義満	元寇を退ける
4.平清盛	地頭を没収	足利三代義満	鎌倉幕府を倒す
5.源義経	平氏を打倒	足利三代義満	
6.源頼朝	朝廷とは違う統治のしくみ	足利三代義満	
7.源頼朝	幕府制度	足利三代義満	

第三段階 (個人の考察)

視点 () 上位3つ ()

キーワード

第四段階 (意見交流)

自分で考えた根拠 (ファンクション) の理由

他の方の意見で参考になったもの

自分の考え 武士中心の国づくりに貢献したのは、 **第五段階 (考察の深化)**